

職種別対話会（包括支援センター）でいただいたご意見と回答				R06. 11. 12地域包括支援センターとの対話会			
分類	NO.	テーマ	地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
医療・介護・健康・福祉	1	IT機器の充実について	共通	パソコン、ITに関して、3職種はパソコンを一人1台使用できるように、他の職員からも今日はお願ひしてきてほしいと言われてきております。 職員に対してパソコンの台数が少ないことで、作業効率が悪くなって残業が多くなる、残業しても終わらなくて、土日に出てきて一人で打つようになる、リアルタイムで記録ができないという弊害が生じています。パソコンがないと仕事ができないことがすごく多いのが、ここ何年か相談件数も増えていることも相まって、それは痛切に感じております。	中長期で考えたら、移行コストもそうなんですけれども、ずっと使うもので、なるべく多くの方々がアクセスしやすいように、一番低コストで行政としてもパソコンを増やせばいいという状況だと、なかなかすぐ対応できないんだと思います。柔軟に、これからそれこそ高齢者の方の数が増えていくわけなので、その都度パソコン台数って言ってるとなかなかややこしくなっているので、例えば10発行すれば使えないとかとなれば、アカウントの数によっていけるのか、セキュリティーの話はあるんだと思いますが。	現在使用している地域包括支援センターシステムの契約期間が令和8年7月31日で満了することから、その後の業者選定については、令和7年度中に実施する予定です。 令和7年度は、現在使用中のシステムにおいて、標準化対応に向けた改修もあることから、令和7年度予算の追加計上は困難な状況です。適正なパソコンの台数も含め、令和8年度以降の契約に係る仕様の検討において、協議していきたいと考えています。 なお、地域支援事業における国・県の交付金の上限もあることから、地域包括支援センターの運営経費についても、パソコンの台数に限らず上限の範囲内で精算しています。	関係課 高齢者福祉課
	2	IT機器の充実について	共通	パソコンでなくてもタブレットとかで入力ができるというものでも構わないんですけども、一応連携はしていないと困るので。			
	3	IT機器の充実について	共通	ケアプランを作ったら、まずケアマネさんは包括に持ってきて、包括のコメントを確認する。それをもって担当者会議に臨むんですね。サインをもらったらまた外に提出に行くんですよ。そこだけで既に足を運ばなければならないので、そういった手間もケアマネさんが委託を受けてくれない、面倒になってくるのかなっていうところで、あとはその全てが書面で渡されてしまうことで、私たちもその書類を保管するスペースが必要になる。どこの包括さんもやっぱり手狭なので、そういった保管のこととかも考えると、やっぱり将来的なことも見据えて、ケアマネさんがちょっとシステムに入れるようなものであれば、お互いにウインウインなんじゃないかなというところですよ。			
	4	プランナー不足について	共通	高齢者増に伴い、市の配置していただいた職員では足りないもので、開設当初からプランナーという形でケアマネージャーを法人の負担という形であえて配置をさせていただいているという状況になっております。	そもそものプランナーの配置ってどう考えるのがいいですかね。市でやるのは現実的にできるのか。根本的に人が集まらないのは単価のところなんですよ。調整されるならば、次が令和8年のタイミングと。ここは持ち帰りましょう。	現状の体制で市の職員で介護予防ケアプランを作成するのは困難な状況です。介護予防プランの作成については、国や他市の動向等も注視していきたいと思います。	高齢者福祉課
	5	プランナー不足について	共通	プランナーの配置に関しても包括でということになっていますが、なかなか正直、人が来ない。私のところが今一人欠員になっていきますけど、10月末で欠員が出て、募集をかけても来ないんです。紹介となると年間の何%といった意味でも、具体的にはその辺も考えていただけたらと思っていただきたいというところは、プランナーの配置に関しては、市役所で直接プランナーを配置していただけたらと問題としての解消は有効かなと思っています。			
	6	プランナー不足について	共通	市でプランナーさんをちょっと入れてもらいたいとか、そういったことをお願い申し上げたところです。元気な方がまず支援を受けることで、自立した生活を目指していくという中で、ケアマネさんが見つからないことでサービスを適切な時期に使えないとか、そういったことで弊害が出てしまうのはよくないんですし、市民の方にとっても必要な時に支援が受けられないというのは言語道断かなと思いますので、そこはよくちょっと検討していただきたいなと思ってます。			
	7	委託費について	共通	委託費についてお話しさせていただきます。包括支援センターの職員は新卒者ではなかなか難しいです。業務は幅広い業務と専門職として一人でそれを担うということの点から、経験のある専門職を置いた方が望ましいと現場で統一して思っております。そうしますと、人件費はそれなりかかります。あと、昇給などの問題も発生しています。ここ最近の最低賃金の上昇とか物価高騰などもあると、現状の委託費では十分なお給料を出さないところが多い。どこの法人でも苦慮しているところだと思います。あとは合わせて事務員配置は、包括支援センターは開所当時から法人持ち出しで置いております。それが専門職が専門職の仕事に集中できるように事務員をおいているという流れのもと行ってまいりましたが、やはりそれによって確かに我々の包括支援センター職員の仕事の質は上がっていると思います。それに没頭できる時間が確保できるので、それはいい結果になっていると思っております。	今、事務員出てないですよ。これ他の包括の方からもお話をお伺いしたことがあります。前提としてちゃんと議論をすることにしてください。国の動向等々もあるので、なかなか難しいんですが、なるべく今、負荷が高いことが、聞いている限りにおいても。令和8年度からということかなと。ケアマネ不足、委託のところは次のタイミングではある程度。	現在の地域包括支援センター運営事業業務委託の契約期間が、令和7年度末で満了することから、令和7年度中に、令和8年度から令和11年度までの委託事業者の選定を予定しています。その仕様を検討する中で、専門職の方々が本来の業務に専念していただけるよう配慮し、現在配置されていない事務員について配置する方向で検討しています。	高齢者福祉課
	8	委託費について	共通	事務員さんの人件費というのが今のところ入っていないくて、今までも法人内で事務の方に委託費を払ってやっていたんですが、法人も人手不足で包括内でやりなさいというお達しが出たんですが、とてもそれは無理な話で、この5月からパートの事務員さんを入れてます。その人件費を確保できないと、その事務員さんをいつまで勤めていただけるかわからないという状況になっていますので、その辺のところをご検討いただきたい			
	9	ケアマネ不足について	共通	ケアマネが不足があると思いますが、印西市やめて別の自治体に行く方も結構いて。行政としても印西市から外に出ないようなケアマネージャーの対策を考えていただく必要が出てくるのかなと。	ここはちょっとスタディしてみましょうか。保育士なども同じことですので、保育課では、一覧で全部他の自治体の動向とかを見た上で、どこまで合わせにくいかというのを整理して、多分一覧を作っています。その辺、他の自治体の状況を見ながら。これは持ち帰ります。	ケアマネ不足については、印西市の問題だけではなく、保育課の保育士不足への対応や、他市の事業等についても情報収集したいと思います。	高齢者福祉課、（参考：保育課）
	10	ケアマネ不足について	共通	ケアマネに関しては、本当に能力のあるベテランのケアマネさんが辞められてしまったりとか、本当にケアマネ不足をひしひしと感じている今日この頃でございます。			
	11	ケアマネ不足について	共通	ケアマネさんの不足に合わせて、特に予防プランを受けてくれるケアマネさんが今本当にいなくて今困っています。			高齢者福祉課
	12	ケアマネ不足について	共通	ケアマネージャーさんが予防プランも受けにいてくれるような助成とかもあったりすると。			
	13	ケアマネ不足について	共通	例えばケアプラン、予防プランを持っている人には月1万円差上げますとか。市独自の。東京都なんかだと居住手当なわけ、ケアマネさんに毎月1万円なんていう支給をやっていたりとか、他市だとケアマネージャーの資格を取得するための助成金を支給していたりとか、行政の方からケアマネさんの事業所が少ないので、来年度の予算でちょっとケアマネージャーへの助成を検討したいんだけどなんて言って働きかけてくれる行政さんもあったりするんですね。ただ、ケアマネさん自身、結構よく言われている介護職員の処遇改善加算なんていうのが毎回言われていて、ケアマネにの処遇改善加算をということを審議はしてもらえんですが、なかなかやはりケアプランというのは100%公費から支払われているということもあって、処遇改善加算の対象にもならないのが現状です。			
	14	買い物支援について	共通	運転免許証の返納のときですね、やはりそれは代替案として、買い物の方が困るといときに、ちょっとなかなか打つ手がなく、移動スーパーというのも地域ケア会議で検討しましたがけれども、なかなかこちらもうまくいっていない状況。	これは全市で問題になっているのと、あとは結構民間でそういうサービスを提供されているところ、それこそ生協を使っている方も結構いらっしゃる。その辺を整理した上で、行政としてどこまでできているのかなと思って、一回、これは全体を見た上で対応を整理させてください。これが非常に大事なことだというのは理解をしています。	—	高齢者福祉課
	15	買い物支援について	共通	移動スーパーさんも収益が見込めないと来てくださらないということで、やはり10人ぐらいのお客様を集めてって感じてないと拠点にしてくださらないような条件になっておりますので、そこを維持するというのが、初めは利用者さんがおられてもだんだん減ってきてしまうと、もう行けませんということで途切れてしまう。			
	16	事業所の配置・整備について	木下・小林・本埜	個室の方が事務所にないもので、隣がワークライフサポートセンターさんという生活困窮の部署もありまして、かなり今そちらの方の声はこちらの方に聞こえてということもあり、プライバシーの確保が難しいというような状況となっております。	北部と本埜の相談スペースについては、少し検討させていただきます。	公共施設整備方針において、全ての地域包括支援センターが市の公共施設の中に配置できるようにということで、賃貸物件に配置されている南部包括は令和7年度からコスモスバレットの中に移転するのですが、北部包括は、木下駅南側の新たな公共施設の検討が進んでいない状況です。北部包括の問題は重要視しており、ワークライフサポートセンターとはなるべく早期に事務所を分けられるよう、できれば次期契約の令和8年度までに場所が確保できることがベストと考えていますが、なかなかよい物件が探せていないのが現状です。	高齢者福祉課
	17	事業所の配置・整備について	本埜	本埜も支所に事務所と相談スペースを置いていただいているんですけども、事務所を置いていただいているんですけども、一度市長も来ていただいたかと思うんですが、コンパクトなお部屋なので、声がすごく反響してしまうんです。職員同士の電話、お互いの声が電話に入ってしまったりと、カウンターで相談している方の声ももちろん聞こえれば、こちらで電話で話している声も相談者に全部丸聞こえで声が急に回ってしまって話が聞き取りにくい時もあったりするんです。あと、普通に話している声も、3階に行く階段から上まで聞こえちゃうぐらいで、声のトーンにもとてもいい環境で、相談をする場所って考えると、もう少しそういった音に関しての対策というか、そういったものをとっていただけたらありがたいなと思っています。			
	18	受け入れ施設の確保について	木下・小林・印旛	低所得の方が入れるアパートが駅近くでスーパーがあるということで、他圏域から低所得者の方は木下・小林に移行してくるということがあります。そのため、低所得者が入れる施設の方の調整をしたときに、偏りがあります。また、75歳になると生活保護の支給額が1,000円の壁というのがありまして、そのため受け入れが難しいという施設がある状態で、今なかなか受け入れ施設の探し方で混乱しているという状況があります。		現状、なかなか見つからないというのが多分どこの包括さんでも思っているっちゃって、高齢者福祉課でも課題と認識はしているのですが、解決策が見つけれないのが現状です。	高齢者福祉課

職種別対話会（包括支援センター）でいただいたご意見と回答				R06. 11. 12地域包括支援センターとの対話会			
分類	NO.	テーマ	地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
交通・インフラ	19	受け入れ施設の確保について	共有	75歳以上など、生活保護の制度なんかも知らないという課題があるわけなんです。だから何とかならないものかなどのは本当にこれがあるからよかった、全くないとやっぱり同じことになると思います。			
	20	事業者への距離	印旛	市街地から離れているために、居宅の事業者さんからも距離があり、同じ印西市であっても訪問するだけでも大変ということで、受けてもらえないことが多々あります。緊急を要するために訪問診療を使いたいと思って、距離を理由に断られてしまうことも多いです。	地域全体の中で、お家もそうなんですけれども、地域に住み続けられるというのをどうつくっていくのかなかなと思っています。広い意味で地域が一つというのは、もうある程度考えなきゃいけないのかなと。最後、自分の生活を支えるというところたちについては、いかんともしいところがあるので、地域の中での分散したまちプラスコンパクトシティーみたいなものがいいのかなと思っています。たまに週末とか家族と一緒に家に帰るとか、あるいは地域のコミュニティの拠点にさせていただくとか、そういうやり方が現実的なところがあるのかなと。ただ、お気持ちはよくわかります。	—	高齢者福祉課
	21	交通の利便性について	共通	交通の利便性がすごく悪いですね。巡回バスを今、地区全域に通してほしいという声が住民から上がっています。	全市の中でタクシー助成については、なるべく、まずは市街化調整区域については広げたいところ。あと、市街化区域の中でも、特に高花・木刈はすごく心配なところで、地域においてはあの辺、特に高花でいうと5丁目6丁目ですかね、駅から離れていて、高齢の方がすごく増えているという、ああいうところも含めて、少しでもタクシー助成であるとか、そこに行く手前の方々は、それこそその他の自治体だと電動アシスト三輪車をセットしてとか、例えば電子で交通不便な方を防ぐような取組を少しずつ拡大してくれています。そういう意味で、来年度は、タクシー助成の範囲をなるべく本埜から、外に広げたいなところ。あとは循環バス、既存路線については少し見直しというか、検討を含めて少し増便を考えています。一回その循環バスを走らせるかみたいな話もあったんですけども、既存の路線とかぶるので、本質はどっちかというフレアイカがなんでニュータウンだけなんだということが本質だと思うので、そこはなるべく使える方向で、今、交通政策の方で動かしていただいているところですね。	—	交通政策課 高齢者福祉課
	22	免許返納後の移動手段について	共通	結局免許返納しちゃうと買い物に行けない、病院に行けない。3,000円、5,000円のタクシーを使って病院往復やって年金生活しようとする、という声が上がってきております。			
	23	移動手段について	本埜	移動手段については、スワン号とかいろいろやっていただいたんですけども、実際にスワン号が、目の前を通るけど乗れないとか、本埜公民館へ行くのに本埜公民館の下で降ろされちゃうとか、結局使い勝手が悪くて使えなかったんですよ。なくなって本当に残念なんですけれども、何かもう少し、今タクシー券を配付をされていますが、本埜はどうしてもそういう足の問題で受診渋りをしてしまって、重症化してから見つけれられる方もいて、結局逆に医療費が高くなったみたいなんですけど。そういったところもスワン号がだめにはなってしまったんですが、課題としては残っているということとで、よろしく願っています。			
市役所づくり	24	移動手段について	本埜	タクシーも来ない。柴町までの話もなくなっちゃったし、今、安食ト杭の方たちは微妙にスポット的に。			
	25	移動手段について	共通	乗り合いでいるんなどころに出向くような地域だったところも、現在は出向くことではなく、自分たちのところに来てもらうような、地域で、大人も子供もみんな一緒にここに来てやってもらう。講座もここに出向くのではなく、来てもらうという形をとっています。それはもう足がない、自分たちでももう担いきれないということで。			
	26	行政の連携について	共通	行政が縦割りになるところは、もうそれはそれで仕方がないですが、やはり縦割りだけでは、私たちの立場からだとも横も。同じ会話や相談をするということが結構多いので、そこが私たちの立場も市民の方も一緒だと思うので、そこら辺は今後ちょっとご協力いただきたい。	これは直接関係者の皆さん集まってもらったらどうでしょうか。ある程度ちょっと副市長使っていただいて。最近、副市長が変わりまして、副市長は非常に福祉を長らくやってきた方でもあるので、ぜひ市役所の福祉関係の推進にやってもらおうと思っているので、ちょっと副市長以下のごにするといいと思います。あと外という観点では、なるべく早く、さっきワークショップもそうですけど、直接現場の方々のお話を聞くということとを、その場に皆が集まって話をするということで、ちょっと見てくることがある。別々でやっていること、結局情報がどこかで伝わらなかつたりとか、だから意見をもらっているじゃないですか。なのでなるべくやった方がいいです。ここは部門横断で、市役所とかもそうですけれども、早目に市役所外の方々と交えた場をつくるようにする。ワークショップとか開催できればいいと思います。結局、内と外と両方走りながらじゃないと、中だけ議論していてもずれてきてしまうので、結局あまりいいものが出てこない。	包括さん方から、他課にまたがるケースの関係でいろいろとやりづらさを感じているということは、高齢者福祉課からもあげさせていただいて、ケースの状況に併せて関係課が横のつながりをもって連携していかないといけないことは、担当レベルでは3課の職員で話をしていますが、各ケースについて直接話すというところの会議体というのは今、現状起きていない状況です。しかし、重層的支事業の整備ということで、社会福祉課が主担当で、関係各課の職員を集めた会議を始めたところです。その場で、高齢者福祉課からも包括支援センターの話や現状の課題をお伝えしています。体制整備ということで、ようやく関係職員が集まって話し合うレベルになったということで。職員の意識改革からという段階です。社会福祉課でも子どもの件等、課題等をつみつけてきて話題を出してくれています。まず重層的支援事業を専門的に取り組む組織ができるだけでも全然動きのスピードも変わってくると思いますし、やれることも増えていくのではないかなと考えています。もちろん、社会福祉課の中で組織ができて、その職員がすべてやるということではなく、集まる職員はそれぞれ自分の業務をやりながら参加するということにはなりますが、まずは重層的支援事業整備を進めるための専門の組織ができることは大きな一歩だと思います。	高齢者福祉課、社会福祉課
	27	重層的支援について	共通	重層的、社会的支援は今後、印西市においても検討していくと思われまふけれども、それは我々は既に包括的に高齢者家族、地域住民という感じで丸ごと対象をつかむので、その中ですごくスムーズに入るので、大変ありがたい動きであります。一層の取り組みを進めていただきたい。そして、我々の包括の立ち位置、役割も皆さんにお示しいたい、理解をいただきたいというふうにお願ひがあります。			
	28	重層的支援について	共通	重層的支援について、これから本当にたくさんの人と手をつないで、いろいろ協力的に一つの案件に関わらないといけないのは重々承知なんです、歯がゆい思いをしている職員がたくさんいるということを市長わかっていただけると。何度も言っていましたけど、話し合いの場をもっと多くとってもらいたい。障害と高齢者の抱えるスピード感が違うって言われちゃうと、そのスピード感はどうやって合わせていんだらう、すり合わせたらいいんだらうって思ったりします。一時を争うような高齢者とかが障がい者も、本人が行きたくないって言ってたら行けないのよって言われちゃうと、本当に瀕死の状態が私たちが入って救急対応にしたりとか、一命を取り留めたりとか、そういう案件が続いたりすると。出しやばっているのはわかるんだけれども、やっぱり生命の維持ということで、共通の認識とか手を取り合う方法をもっと話し合いを持って、重層的支援って大きく掲げているのであれば、印西市さんの中に入ってもらってやっていただきたいです。			
	29	困難ケースの対応について	共通	困難ケースの対応、虐待も含めてですけれども、やはり対応時間がないとは思いますがけれども、もうちょっと丁寧に、ケースによっては集まっての話し合いの場がきちんと確保されてほしいというのが一番の願いです。電話でのやりとりが主でした。今までは。話し合いの場を持てなかったり、お話をする時間も少なかったの、共通理解が不足していたり、また連携して解決に動けなかったりということの弊害が生じていたと思っています。ただ、最近で今年度に入ってから包括支援係の方がいるんなどころに同席していただいていることは、私個人としては実感しております。それは大変ありがたいことで、やっぱりお忙しいと思うんですけども、現場との乖離のために現場を時々見ていただきたいというのが私からのお願いではありません。	—	包括の皆さんをはじめ、ケアマネさんや事業者の方々も本当によくやってくださっていると感じています。取り急ぎまずは電話でやり取りすることはあると思いますが、なるべく、関係者が集まって話し、状況を共有することが大事だと思いますので、特に虐待ケース等早めに話し合いの場をもつことを意識して動くようにしているところです。	高齢者福祉課
	30	業務のフィードバックに	共通	これまでは市の方針が下りてきて、あわせて計画を立てている。計画立てていたことについてあんまりやりとりはされてないままずっと仕事をしてきたので、私たちはその方向であっているのか、いつも私は不安で大きい圏域を担当しています。もうちょっと基本のような話で、何で今までやっていただけなかったのかなと。やっぱりどういうふうに考えているのか、今の統計的なそういった私たちが利用したいききんとしたデータをそろえて、規模と適正を見るようにみんなで行う場がある。見直しを立てて、どこに力を入れるのか、自分たちの業務の計画を見える化できたら。	印西市に限らず、また、行政に限らず、日本の組織の特徴として、会議体が形骸化していくんですよ。形になっていつちゃうんですよ。何かとりあえず手元の足元の報告事項みたいなところで終わっちゃって、もう私たちの議論ではないのか。それが結局、アンダーザテーブルとか言いますが、水面下でみんなが何となく調整しながら決まっていくという謎な文化があると思っています。それを変えないとうまくいかないんだと思います。	—	全課
	31	業務のフィードバックに	共通	会議を開いて、そこに私たちの出席したときも物足りなさを感じたり、あと委員の方も先日の会議でも委員の方から言われました。僕は違う現場の話をしたかったのに、質問を違うようにとられて終わってしまった。残念だった。私も聞いてて思いましたし、現場を知っている人はやっぱり同じ視点で話を聞いていた。その乖離があるんですよ。会議のことを回しているとか、そこでしょうがないんですけども、少しここをすり合わせた方がもっといい活発な会議になるんじゃないかなって。御指摘もいただきたい。私たちの仕事に対して指摘もいただきたい。プラス評価だけでなく、マイナスもまとめて評価していただきたい。	僕はできれば年に1回はこういう場で直接やりたんですけども私含めて。もっと早めて、予算に生かせるような時期に1回やって。市長直下で僕しか決裁できないものもあるので。期が始まった後に、どうですかねとかというのは、今年の施策のところの説明で1回、は最大2回できるので、やりたいと思うんです。それと別にそれは、こういうそれぞれの論点についてちゃんと議論していることと、2回で足りないって言って、そこに僕が全部いるというのは現実的に難しいと思うので、だから、運営協議会でそのままだう少しこういう個別の論点について毎回ちゃんと議論できるような座組とかをつくるのかなのか、それともそれと切り出して、こういう感じて何か何かを示しているのか、それとも議論するかとか。	所長会議など、事務連絡だけでなくできるだけ所長さんたちとも話をしていきたいと思っています。	高齢者福祉課

職種別対話会（包括支援センター）でいただいたご意見と回答					R06. 11. 12地域包括支援センターとの対話会		
分類	NO.	テーマ	地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
	32	業務のフィードバックに	共通	実績報告書がどのように統計されてどうなのかというリアクションをもらったことなくて、自分たちはこしか見えてないけれども、もう少し多角的に見ると、私がもうちょっとフォーカスした、この辺も触らなくちゃいけないけど、落ちるところがあるんじゃないかというふうに思ったりすることがある。自分の自信のなさだけです。フィードバックがあった方が。本当にいつもきちんと丁寧に対応してくださいまし、業務を下ろしてくるときも余力があるかも確認して落としてくださいますけれども、やったことに対して片道な感じがします。一方通行の形で。カフェとかもそうでしょうし、皆さんも後は自分たち独自でやった後の報告書も、オリジナルの報告書を出しても、それについてこうでしたねってやりとりは過去なかったです。これやってていいのかな。これまでも自分が必要だと思ってやっているんだけど、確認がとれないというか、当包括だけの特徴なのかもしれないです。これを見ると。職員のモチベーション維持も少し悩んでいて、いいものをしていきたいと思う。管理者だけの気持ちでもついていけないし、職員にどうやってやる気を持ってもらえばいいのか、やってもやらなくても同じと。評価って難しいけれども、見える化だけでも、全体としての何かの動きで、この分野が欠けているとか、この分野ができているのかの見える化だけでもほしいなとか時々思います。	市にとってもヒントはありましたね。1回協議会見に行ってもいいですか。なるべく対話をした方がいいんじゃないかと思います。私市役所入って思ったのが、非常に事務連絡とか報告が多いんですね。でもそれって紙を要はわかるので、それよりも多分そのときに。一番ものを進めていくときに必要な話をした方がいいと思いますよ。議論をした方がいい。課題が何でとか、何をやらなきゃいけないんだけど、これではできるのかどうかとか、実際に次のアクションが生まれるような結論が生まれるような議論の場とかにしないと、僕もちゃんとファシリテーションしたかわからないけれども、何か幾つか議論しなきゃいけないものが生まれたじゃないですか。そのような場をちゃんとつくる。フリーディスカッションとかはいいんだと思うんですよ。さっきの評価の話とか、あえてフリーになんか思っていることがあります。つくと出てこないの、そこは月1の会議と協議会ですかとの話も踏まえて、立て付けを考えていきたいと思います。	地域包括支援センター運営協議会は年2回です。毎月所長会議は実施していますが、主に事務連絡や市からのお願いごとの伝達が多い状況です。運営協議会の資料として包括の活動等の実績等の実績報告や事業評価について、各包括から書面で提出していただいています。その内容について、まずは市と包括との間で協議する、意思の疎通が不足していたと思います。今後も直接顔を合わせてお互いの意見を話し合うことはとても大事なことです。ので、できることからやっていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。	高齢者福祉課